

## 終わりの世界から

わら あ しあわ  
笑い合えるってすごく幸せなこと

それをきみから教えてもらったんだよ

ちい とし し  
小さな時からなんでも知っていて

きみの趣味 その理想に合わせようとした

そんなきみがこっそり教えてくれた

す ひと としう え きれい じょせい  
好きな人 年上の綺麗な女性

お ち からつか か こ  
追いつけない だから能力使う 過去へとリープ

そこでまたきみと出会う また恋をするんだ

ぼろぼろに泣いてきみは探していた

とつぜん おもかげ  
突然いなくなったあたしの面影を

はや かえ ち から いっぽうこう みらい と  
早く帰ろ でも能力は一方通行 未来には飛べなかった

とお つた  
遠くからきたってことを伝えたい

でもそれは駄目だってどこかで気づいてた

としう え み き  
年上のあたしを見て訊くの

「あなたに似た人を探してます

なに し  
何か知りませんか」と

ぼろぼろになってあの日を探していた

ばらばらになったふたりをつなごうとした

やめて あたし ここに居るよ だからどこにも行かないで

また春が来てきみはここを発つと決めた

「もしあなたがあの人だったらよかったのに」と残し

こい ぜいたく かんじょう  
恋をする 贅沢な感情

それを思い出した

だから全力でその手を取る

ぼろぼろになってきみにほんとを<sup>つた</sup>伝えた  
ばらばらになった<sup>じくう</sup>時空に<sup>す</sup>吸い込まれていく  
そして<sup>めざ</sup>目覚めたらそこは<sup>いちめんはいいろ</sup>一面灰色の<sup>せかい</sup>世界

<sup>て</sup>手に<sup>も</sup>持ってたのは<sup>ふる</sup>古びた一枚の<sup>いしん</sup>写真  
こんな<sup>いろ</sup>色をしてた<sup>じだい</sup>時代もあったんだ  
そこで<sup>むじゃき</sup>無邪気に<sup>わら</sup>笑ってる  
きみに<sup>あ</sup>会いにここから<sup>りーぷ</sup>旅を<sup>はじ</sup>始めた

また<sup>わら</sup>笑えるかな あたしこの<sup>せかい</sup>世界で  
きみの<sup>いしん</sup>写真は<sup>お</sup>置いたままで<sup>ある</sup>歩き<sup>だ</sup>出す